



享保紅波編

推入

~ 13
3364
15上





京子保仁政源堂之書



目錄

一 松川探十席之實又深尾法蓮

由冬味仍之探十席之白狀

一 事

并張之由仕直次書之書



淺川探十席





門 43
號 3364
卷 15

Vertical text on the left side of the page, possibly a title or a note.

Vertical text in the middle of the page.

Vertical text on the right side of the page, possibly a poem or a commentary.

Vertical text on the far right side of the page.

Red seal impression at the bottom of the page, containing characters.

白鳥居仁政の遺墨



淡川橋下解官入侍尾花

長谷川橋下依

血

中仕

新

淡川橋下

出づるに誠なるもの作らざる
とて極中其武たるは極中
明もたしあふは務成
をたしあふの成なる
しあふの成なるもの
ふしとたのむに
なり一併大工金
今更なるを棄てし
一併
花が丹まあを
車も奥村多力
いあふ上
白杖の作は
きしはがあし
か上りい
いあふ
いあふ
いあふ

我を以て正字に之く 考を教すは
よるれとの世をみるものなり
席をとりて物をしるる事
知れりといふはあやうく
了まのく 連行の白法の屋敷
あゝあゝの思ふに人畜と
しるべき事ありとて 考を
くしるる物考をくしるる事

白字のど 係十席が実字
情を思 正字を以て作らるる
正字係 係十席の正字の
係十席の正字の白字を
久係の正字の正字の正字
が正字の正字の正字の正字
情を思の正字の正字の正字
何事の正字の正字の正字

対面 つらみ あせ な せ な ね た たら ん せ ん ね ん ね ん

し し ぬ ぬ の の ぬ ぬ の の ぬ ぬ の の ぬ ぬ の の ぬ ぬ の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の 白 しろ 坊 ぼう の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の 因 よ 入 り 縁 えん 何 なに 事 こと の の

概々之を以てしる事にして其の
行福を以て持知しめしむる事
何事ありし。 衆人の徳因も亦
一り名位を以て入る事ありし也
後述の如く其の如く被りし時
定むる事ありし。 衆人の徳因も亦
括利しむる事ありし。 衆人の徳因も亦
あつた事ありし。 衆人の徳因も亦

事 其の如く其の如く被りし時
久候しむる事ありし。 衆人の徳因も亦
了りし事ありし。 衆人の徳因も亦
まりし事ありし。 衆人の徳因も亦
ろし事ありし。 衆人の徳因も亦
海を以て入る事ありし。 衆人の徳因も亦
あきし事ありし。 衆人の徳因も亦
の事ありし。 衆人の徳因も亦

とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く
とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く
とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く

とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く
とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く
とそく又出給ものなり
よまらば其の如く
事よまらば其の如く
まよまらば其の如く

妻も亦平判り候し候し 巻五
ゆへにあま〜 尊〜 なる
ゆへにあま〜 の妻も 法もあつる
妻も亦平判り候し候し
上は對 心も入 亦もあつる
ま〜 切腹仕〜 書
う丹あり〜 妻も亦平判り候し
入もあつる 法もあつる
〜 妻も亦平判り候し候し
或も〜 法もあつる
美分もあつる 法もあつる
あま〜 法もあつる
〜 法もあつる
あま〜 法もあつる
〜 法もあつる
あま〜 法もあつる
〜 法もあつる

笑の隣りあふむはる新しき
兼て 保平席 大なる何なり
柳急をまゝの 汐川 保平席
りさる由 白杖をらん子の家
親よりかゝる道理なり 執事
も及 親懐たまふせんついで
此言 知んしとめさるに 懐か
懐のしとて 保平席 保平席

引く 保平席 保平席 保平席
出 子あふむ 親あふむ
左からあふむ 保平席 保平席
うゝ 母を 一目を
あふむ 保平席 保平席
保平席 保平席 のおむせう
あふむ 保平席 保平席
あふむ 保平席 保平席

まことみくしん 紀平 木舟 付 辰
何い 舟のうし 多の 保 辰 辰
七月 木 あり 落 辰 辰 辰 辰
方 の うし

大 師 書

中 書 信

後 川 掾 所

まの ち ち ち

長 子 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

長 子 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

信 補 人

村 松 仙 辰 辰

市 辰

甲 田 辰 辰 辰

市 先 辰 辰

山 辰 辰 辰

長 子 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

あつち

少年多侍

禁井九席古

るのみ名

其のりきほし
御親親

かあぐし
御親親

おす
御親親

上は
御親親

列
御親親

つら
御親親

のり
御親親

た
御親親

浪人早名

白雲殿の解

た

其のりきほし
御親親

其の上
御親親

上総正室

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

其の御意

中一梅ひか 付家

件何れ海の系名

海月屋探三情

月元梅屋古伝名

誠信不違名

上柳 新丁村名

女書

柳丁村名

お人

孝子屋伝書

関名有元七三情

海系名

河原屋探三情

其月ともが 官名探三情

孫九梅屋古伝名

とらふ人 世伝 一人

月元丸 由らふ人 一人

怖^こしのもの^いの^け徳^{とく}人^{ひと}の^まあ^まを^ま徳^{とく}人^{ひと}又
ま^まの^ま徳^{とく}め^めの^ま徳^{とく}子^この^まま^まの^ま徳^{とく}子^こ
る^る徳^{とく}子^この^まま^まの^ま徳^{とく}子^こ

久^く木^き徹^{てつ}部^ぶの^まま^ま

及^及徳^{とく}子^この^まま^ま

其^{その}の^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま
これ^{これ}の^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま

西^{せい}の^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま

孫^{そん}の^まま^ま

孫^{そん}の^まま^ま

其^{その}の^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま
り^りの^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま
持^{もち}の^まま^まの^ま徳^{とく}子^この^まま^ま

上^{じやう}の^まま^ま

佛之塚村

百世 木心三郎

長子長孫 宗三郎の一人の長子

上の子孫 列位子孫も

と云ふこと 成程いなり

油系系重三郎

係系重三郎

古金重三郎

宗三郎

中系系重三郎

水系系重三郎

宗三郎

接系系重三郎

山系系重三郎

宗三郎

月系系重三郎

